
無能力者と能力者

黒鎌

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

無能力者と能力者

【NZコード】

N8022M

【作者名】

黒鎌

【あらすじ】

「ごく普通の平和な世界
「ごく普通の一般人
ごく普通の高校二年
そんな俺、菅原風真は、世界の“裏”について知つてしまつ

世界の“表”は平和な世界
世界の“裏”は魔術や能力の蔓延る世界

みんなの知らない事実を俺は隠し通せるのか

そして、無能力者（一般人）の俺は、どこまで戦えるのやら

一章 こつもの日常

修学旅行、班割！！

「この班は修学旅行においてずっと共にする班だ！部屋もな！だから慎重に考えろよ！！」

委員長の言葉にクラス中の人間が散り、各自、友人の元へ向かつて行く

今日は担任が不在のため、このような時間は積極的に委員長が取り組む事になっている

私立平香春高校、2年5組
賑やかで、じく普通のクラス

学校 자체は一年は9クラス

一年は10クラス

三年も10クラス

と、割りと大きな高校である

「おい、俺と班組もうぜーー」

「やだよ、お前と組んだら…なんとなくやだ」

「ひでえ！」

と、じのよつにクラスはざわついている状態

ちなみに修学旅行の班は

男女3人づつで行動、部屋は男女わかれることになつていて
行き先は北海道、初めての旅行にもなる人もいるはず（多分）な
で浮かれるのは仕方がないのであるう

「おーい！風真さんやーー！」

「俺らと組まないか〜！」

そんな中、二人組みが菅原に話しかけてくる

「ふつふつふつ…」

「〜?」

菅原は不適な笑みを浮かべる

「嫌だ！」

「「何でだあああああ〜！」」

二人組みを拒絶した菅原は怒鳴られる

この二人組み、菅原の友人の棚田と諸井である

「だつてよ、お前等とは休み時間、いつも話してんじやん

「うんうん」

諸井は相槌をうつ

「だから、他の人のとの交流も…」

「「言うと思つたぜこんちくしょおおおお〜！」」

なんなんだ、この一人のシンクロ率は、と思いつつ彼らから離れようとする

しかし、両腕を捕まれ

「委員長〜！俺ら三人決定！」

「おう！わかつた！」

棚田の叫びにより、いつの間にか班が決定した

「なんで勝手に決めてんだあああ〜！」

菅原の無念の叫びはクラスのざわつきに消されていた

*

昼休み

「修学旅行もよろしくなー風真」

「足引つ張るなよ〜」

「なんのだよ！」

彼らは食堂に向かっていた

食堂はこの学校の全生徒の憩いの場である
人気メニュー、カレーは早めに並んでおかないと食べれないほどだ
「さて、今日は何を食べようかねえー…」

諸井の咳き

「お前は…」れだな

そう言ひ、菅原は

限定！超激辛！カレー！￥500

完食すれば料金払い戻し

と書かれている手作り看板を指す

「おお…面白そうだ」

彼はカウンターへ突つ走り

「おばちゃん！激辛カレーーーー！」

「あいよー！」

「「アホだ」」

取り残された棚田と菅原の二人の咳きは不思議にもシンクロしていた
実はこのメニュー、どの生徒も手をつけてないのだ

食堂のおばちゃんが一口食べた感想が

「なんか川が見えた気がする」

という発言だからだ

だから、このメニューは誰も食べてない未知のメニューなのだ
そんなメニューに、勇者・諸井は挑戦する

「ふふふ…」じつあ、つまそうだ…」

「…………」

三人食堂の机に並んで座っている

しかし、菅原と棚田の選んだうどん、と諸井の激辛カレーにはあまりにもギャップがあった

さらに、諸井には他の生徒たちが注目している

菅原は諸井の肩をポンッ、と叩き

「諦めるなら今のうちだぜ？」

「諦めるかよ…俺は…」

うおおおおおお…！！！

と叫びとともに激辛カレーはドンドン諸井の口に運ばれていく
おおおおおおお…！！！

と野次馬生徒たちも歓声をあげている
が、激辛カレーが半分をきつたところで諸井の顔は青ざめしていく

「諸井…、大丈夫かいな」

棚田は諸井の前に水を差し出す

が、諸井はピクリとも動かず

「か…」

諸井が口を開く

「辛いに決まつてんだろおおお…！！！なんで俺はこんなメニューを選んだ…！！！うおおお…！」

諸井は真っ赤な顔で食堂を飛び出していく

一体どんな作り方すればこんなカレーになるんだ、と菅原は味見してみる

「おい、菅原…？」

棚田は止めようとしたが遅かった

カレーは既に彼の口に運ばれている

「…意外にいけるじゃねえか、コレ」

食堂中で生徒たちのものらしい大声があがたた

＊

放課後

「絶局、諸井はどなたなんだ?」

菅原は相田に尋ねる

卷之三

そつか

と菅原は返し

一
じやあ、
俺
先に帰るな

おハ、謡井ぐとじに酔ひなしのか?」

ナニヤニ

六

まだ明るい帰り道、菅原と棚田は歩く

そして、別れ道

・ しゃあな あた明日」

۱۰۷

菅原な挨拶に棚田は返す
そんないつも通りの日常はいつかは崩れる
ある日を境に崩れる

それは菅原にとって今日、訪れる

彼にとっての“田常”は大きく覆るほどの田

一章 こつちの日常（後書き）

一話、どうだったでしょ？

まだなんの事件も起じていないのでなんとも言えないでしょ？

この作品のテーマは「田常・非田常」です

一話のような田常パートもありますし、田玉の非田常（能力、魔術
関係）パートもあります

これからも展開に期待してくれれば幸いです

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8022m/>

無能力者と能力者

2010年10月11日18時49分発行